こころの窓　R4.7.6

あつかったけど、あたたかかった修学旅行

先週の水・木と、６年生と一緒に修学旅行へ行ってきました。この２年間は県内に目的地を変更していましたので、３年ぶりの東京修学旅行です。校長としては、「**県内や都内の感染者が多ければ延期もやむなし**」と考えていましたが、幸いどちらもコロナの感染状況が落ち着いており、実施を決断することができました。

しかし、感染リスクが低いというだけで、コロナが終息したわけではありません。いつ、誰が感染してもおかしくない状況です。そんな中でも修学旅行を楽しい思い出にするためには、でき得る限りの感染予防をすることが必要でした。例えば…

〇各クラス１台の大型バスを利用させていただきました。

〇食事場所のパーティションが足りなかったので、学校から持参しました。

〇約２週間前の音楽会も感染予防を重視し、入場制限にご協力いただきました。

ほかにも、参加者それぞれの体調管理や感染予防の取組も含め、様々な対策をして当日を迎えることができました。

これらのことを考えた時に思うのは、この修学旅行を実現できたのは「４６人の子どもたち」「保護者の皆様」「それぞれの学級の担任」の思いが一致したからこそなのだろうということです。４年の時の長野市見学も５年の時の高原学習も中止でした。スキー教室も２年連続して行っていません。関係者全員の**熱い思い**が、この修学旅行の成功につながったのではないかと思います。

１日目は、長野県・東京都共に、今年度初めて「熱中症警戒アラート」が発令された日でしたが、ほとんどの時間は屋内での見学であったため、直射日光を浴びる時間は短くて済みました。しかし２日目は強い日差しの中での行動が多くなりました。配ったスポーツドリンクを飲みながら、帽子をかぶって動きます。

体調を崩すのではないかという心配が高まったその時です。学年主任が子どもたちに保冷剤を配って回っていました。どこで手に入れたものかと思ったら、見学地のすぐ近くの小学校に学生時代の先輩がお勤めされていて、川西小の子どもたちに配るようにと大量に届けてくださったのだそうです。とても**冷たくて**、でも**あたたかい保冷剤**のプレゼントでした。

ありがとうございました。とても気持ちよかったです。

さて、加工してあるので分かりにくいかもしれませんが、左の写真はどんな場面だと思いますか？何かを押し戴いているような感じが伝わりますでしょうか。

実は、２日目の朝、ホテルを出る前におみやげ代を渡してもらっている場面なのです。おうちの方に積み立てていただいている旅行貯金でこの修学旅行ができ、自分と家族へのおみやげを買うことができる。そんなことへの「ありがたい」と思う気持ちがこの姿になっています。これも**心があたたまる**シーンでした。

他にも川西小らしいエピソードはいろいろあるのですが、紹介しきれません。でも、ホテルのみなさんにも、バスの乗務員さんにも、旅行会社の添乗員さんにも、見学地で働く皆さんにも、「よく来たね。」「またおいで。」「いい旅行になったね。」と言っていただけるような姿だったことは確かです。

学校へ戻ると保護者の皆様が手を振ってバスを迎えてくださいました。わずか１泊かもしれませんが、初めて家族と離れて泊った子が多かったはずです。おうちの方はさぞかしご心配だったことでしょう。元気に帰ってきた子どもたちを見て、うれしいお気持ちだったことと思います。応援ありがとうございました

明けて金曜日、学校に郵便物が届きました。中には修学旅行のしおりが１冊。前の日にお土産屋さんに置いてきてしまったしおりを郵送してくださったのです。しかも、送料はお店の負担です。

子どもたちがそのお店で買い物をした金額はさほど多くはなかったはず。そのやさしさに、**心のあたたかさ**に頭が下がります。ありがとうございました。

週が明けて今日で３日目。おかげさまで６年生はみんな元気です。

修学旅行の体験学習で絵付けをした「江戸風鈴」を今日から飾り始めました。風が吹くとチリンチリンと涼しげな音が聞こえます。その音を聞きながら、私もようやく校長室で**ほっと一息**です。